もみじ

－広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報－

一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟
〒733-0011　広島市西区横川町２丁目 4-17
電話・FAX　（０８２）２９６－５５９７
E-Mail：hgakuren@lime.ocn.ne.jp
URL：　http://hiroshima-gakuren.or.jp
郵便振替口座　01380-6-37958

題字デザイン　今村みずほ　　編集　西部伸也

本号内容

1．山岳レスキュー(無積雪期)研修会(6/16 福山市 蔵王憩いの森) 報告
2．クライミングスクール（6/2 三倉岳 源助崩れ）報告
3．トレッキングスクール（6/23 広島南アルプス(武田山～鈴ヶ峰)）報告
4．県高校総体（6/1～2 県民の森・比婆山一帯）報告
5．恐羅漢登山道笹刈り（5/18～19）報告
6．大邱山岳連盟来広・登山フェスティバル・県民ハイキング（5/31～6/2 東広島龍王山ほか）報告
7．岳連短信（寄贈御礼、8 月の予定、大西浩氏訃報）

1．山岳レスキュー(無積雪期)研修会報告

（指導部長　森本 覚）

6/16(日)　人数：34 名（スタッフ含）

福山市　蔵王憩いの森にて「令和 6 年度山岳レスキュー(無積雪期)研修会」を実施しました。

はじめに大田副会長による挨拶と後藤副会長による登山届提出の重要性についての説明を行いました。その後クラス別の会場に分かれて、クラス 1 はツェルトの設営とザック搬送の講習を行いました。クラス 2 は自己脱出と振分懸垂などの登攀中のレスキュー技術の講習を行ないました。実技講習後に全員集合してクラス毎の研修の発表後、山田会長による挨拶にて研修を終えました。（森本）

【感想文】

（クラス 1 受講生　柚木 貴子）

「レスキュー研修会」、私にはハードルが高いのではないかと思いましたが、少しの興味と向上心、そして地元の山で行われるということもあり申し込みしました。

研修内容は、ツェルト設営とザック搬送。まず、午前中はテキストと指導者の実技を見ながらロープワークをしました。８人の受講者に対して４人の指導者でしたので分かりやすく丁寧に繰り返し練習しました。午後からは、そのロープワークを使いツェルト設営。ツェルトを使って自分の空間を作る大切さをいろんな例で教わりました。次に、ザックを使って背負い搬送と担架搬送の実践をしました。ザックと雨具の上衣、ストック２本などで腰掛台を作り負傷者を乗せスリングで固定。私は、背負っていませんが安定感がありました。担ぎ手交代時は腰掛台に使用しているストックの両側を他の２人が支えれば入れ替わりが素早くできる利点もあります。最後に、ザック３つを組み合わせた担架を作り搬送しました。どちらも搬送してみて気が付きましたが、一般登山者が負傷者を搬送することはとても大変なことです。力のない私にはできません。今回の研修では救助技術を学びましたが、緊急時の避難対策と安全登山の重要性を体験しながら教わりました。指導者とスタッフの皆様、ありがとうございました。

（クラス 1 受講生　鮫島 博士）

福山山岳会に入会して 3 年目、初めて県岳連の研修会に参加させて頂きました。

今回は福山山岳会のホームマウンテンの蔵王山での開催。蔵王山は標高 225m、山のほとんどが「蔵王憩いの森」として整備されており、山頂からは福山市街から仙酔島までも一望でき、福山山岳会員のみならず市民の散策にも愛されている山です。

クラス１は、森本コーチ、小家石コーチによる、基本的かつ実用的なロープワーク、ツェルトの張り方、ザック搬送のレスキューをご指導頂きました。

ロープワークでは、配布資料やコーチの実演を参照しながらも、なかなか習得できず苦戦していると「簡単にできることを教えてもお金を取れない！(笑)簡単に出来るようなことは教えていない！」との森本コーチのお言葉に、妙に納得。

ツェルト講習では、小家石コーチご自身が低体温気味になられ、その時はテントのフライシートをツェルト代用で休憩し体力を回復された実体験を聴かせて頂き、ツェルトは夜を明かすためだけで無く、躊躇なく山行中に使用し、体力回復を図る意義を理解。

ザック搬送でも、いかに搬送する（救助する）側が大変かを身をもって体験することが、自分自身が救助される側にならない・迷惑をかけまいという姿勢に繋がることを期待している、という森本コーチのお言葉に、大いに納得。

納得だらけの充実した研修、ありがとうございました。

『新たな技術の習得と今後の展望』

（クラス２受講生　松井 邦幸）

既にご存じの方も多いと思いますが、先日、警察庁から公表された報告書「令和５年における山岳遭難の概況等」によると、去年１年間に全国の山で遭難した人は 3,568 人で、統計が残る 1961 年以降、過去最多（最悪）の遭難者数となったそうです。

山での遭難は、2018 年まで増加傾向が続き、その後新型コロナ拡大の影響もあって、一時減少しましたが、再び増加に転じているそうです。

今回受講した山岳レスキュー研修(クラス 2)では、ロッククライミング中の事故を想定した自己脱出や救助を指導していただきました。

この技術はロッククライミングだけでなく、他の山岳事故やさらには災害時の緊急対応にも適用可能であると私は考えています。また、ロープは人命救助の最終手段となる可能性があるため、その技術を習得することに深い関心を持ち、この講習会に参加しました。

訓練内容については、作業が複雑で、文章にすると長文になってしまうため、簡単な箇条書きで説明します。

1. 「二人でダブルロープ登攀中、トップ（要救助者）が 30m登ったところで墜落・負傷し身動きが取れなくなり、セカンド（救助者）が救助に向かう」という想定で訓練を実施しました。
   (1) まず第一に、セカンド（救助者）がビレイから自己脱出する。
   (2) 次に、セカンド（救助者）がトップ（要救助者）へアクセス（登攀）する。
   (3) 最後に、要救助者を救助し、二人で懸垂下降したのち、ロープを回収する。
2. 懸垂下降中の登り返し。

これら一連の動作を先ずスタッフにデモしていただき、その後、受講者２名１組で指導を受けながら訓練を実施しました。

私の実技はと言うと、意気込みとは裏腹に、なかなか上手くいきませんでした。

例えば、1.(３)の要救助者とともに懸垂下降する際のマッシャートレスの効きが緩かったり、2. の登り返しでは足用とビレイループ用のクレイムハイストをメインロープに巻く位置が逆だったりと、既に教わっていた作業まで失敗してしまいました。

その他の動作も、一つ一つの作業は理解していても、一連の動作としての繋がりがイメージできず、手間取ってしまいました。

しかし、この講習では多くの挑戦と学びの機会があり、有意義な時間を過ごせたと感じています。これらの技術がいざという時に使えるよう、地道に練習を積んでいきたいと思います。

ただ、この訓練は一人で行うには限界があると感じています。

今後の展望としては、ロープレスキュー訓練を行っている団体に参加するか、あるいは有志を募ってロープレスキュー練習会を行うしかないのかな等と考えています。

広島県山岳・スポーツクライミング連盟主催のレスキュー研修には、ここ数年、毎回参加させていただい

ていますが、いつも新しい発見があり、知識が増えていくことに喜びを感じています。

ご多忙の中、ご指導いただいたスタッフには心から感謝申し上げます。今後ともご指導のほど、よろしくお願いします。

また、講習に参加された皆様、貴重な時間を共有できたことを嬉しく思います。今回の講習に関する練習会など、何か良いアイデアがあれば、是非お声がけください！

最後に、皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

（参考文献）

警察庁「令和５年における山岳遭難の概況等」令和６年６月 13 日
https://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetylife/chiiki/r05_sangakusounan_gaikyou.pdf

（クラス２受講生　福山山岳会　渡邊 晃大）

無雪期レスキュー講習会（クラス 2）に参加させていただきました。

ダブルロープでの登攀時にリードクライマーが負傷して動けなくなった場合の対処方法でしたが、そのような状況はいつ起こるか分かりませんので、確実に学んでおかなければならない内容だと改めて実感しました。

また、最初に今回の講習会の方法は、あくまで一つの例であることの説明がありました。確かに、事故が発生した場合には状況は様々で、その時の最適な方法を選択して対応する必要があることや、より自分にあった、安全な方法を習得していく必要もあるので、色々な方法を学んでおくことは良いことだと感じました。

ビレイヤーの自己脱出は、以前別の講習で学んだことがある内容でしたが、思ったより手間取って時間がかかってしまいました。

また、ダブルロープ登攀での要救助者へのアクセスと救助、同時下降は、初めて実技をしました。講師の皆さんに丁寧に教えていただきましたので、どこが良くなかったのか、どうすればより良くなるか理解できました。

このような講習を受けることができる機会は少なく、貴重な経験でしたが、講習を受けて終わりではなく、反復練習をするなどで身に着けていきたいと思います。ありがとうございました。

（写真提供　久保田 征治）

2．クライミングスクール報告

（指導部長　森本 覚）

第 3 回　6/2(日)

山域：三倉岳 源助崩れ

人数：20 名（スタッフ含）

2 人ペア 7 組で　ねずみ小僧下部、ラッキーネーブル下部、モアイクラック下部、ヒップクラック下部、ソフトクリームにてトップロープの講習を行いました。猫のひめい終了点からラッペルの講習を、緩斜面でセカンドビレイ(ムンターヒッチ)の講習を行いました。（指導部　塩田 徹）

【感想文】

（受講生　Y．O）

3 回目のクライミング講習は、三倉岳での初めてのゲレンデ練習でした。

1 回目は天応で 5 本のロープがセットされ、登る側と確保する側の指導を受けました。

2 回目は雨のため、三倉の東屋でロープワーク講習（支点作り・マルチクライミングの流れ）。

3 回目は三倉岳ゲレンデで今まで習ったことを総合的におさらいし、これからが岩と向き合う本番の入り口です。

ゲレンデは源助崩れ正面、きっとクライミング入門コースと思われます。今回も指導に当たって下さるスタッフさんが前もってゲレンデに 5 本のロープをセットしてくださり、順番に受講生がルートを変えて次から次へとクライミング練習しました

他に懸垂下降・途中足がらみで停止・マルチの時の引き上げシステムの復習も盛り込まれていました。

効率的に充実した講習になっていて、また指導や声かけも絶えずありスタッフ皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

私のクライミングは最初の登りからてこずってルートの半分も登れずに毎回時間オーバーになってしまいました。またビレイの時は最終着地地点で相手の方を宙ぶらりん状態にさせてしまい、ロープ緩めてと言われるまで立てないのに気がつきませんでした。

毎回終了後には、今日もクライミング講習楽しかったなと思いつつ帰るのですが、この感想文の宿題をも

らったことよって少しずつでも上達するよう、次回に向けての課題（今回よりは上に登れるように筋トレ）に向き合いたいです。

（受講生　細田 悦朗）

クライミングスクールの第 3 回目は、6 月 2 日に三倉岳の源助崩れ（正面）で行われました。

私は今回の源助崩れは 3 年前にも経験しており、クラックを登るときのジャミングに苦労した記憶があります。前回の講習を受けた後は、天応や窓が山の初級クラスの場所で月 1 回程度クライミングを楽しんでいますが、変化に富んでいる三倉岳の岩壁で再びジャミングを習得したい気持ちになり、この度の教室に参加することとしました。

練習は 2 人 1 組で 5 か所設置してあるトップロープに分かれ、確保器のセットやハーネスへロープが正しく結ばれているか毎回チェックし登って行きました。1 人あたりの持ち時間も 15 分と短く、準備を急ぐあまりに確保器の取り付け誤りやタイインポイントにロープを通していなかった不備が出るなど、スクール初日に指導受けたことが正しくできなかったこともありました。

クラックに再挑戦できる気持ちは高ぶっていましたが、体も温まっていないうちにヒップクラック下部からのスタートとなり、予想通りフットジャムで体を支えることができず、目標を超えることができませんでした。さらに、ラッキーネーブルも前回と同様な光景となってしまい、ジャミングのコツがつかめないまま終わってしまいました。

手の甲の膨らませ方が悪いのか、クラックへの手や足の入れ方が浅いのか不明です。

ジャミングの場所が高くなるとさらに不安感も大きくなり、落ちたとき足先が抜けなかったらなどと不安が頭をよぎり、精神的な弱さもうまくいかない原因だと思っています。

ロープワークの練習では 5 月に教わった懸垂下降の途中停止とインラインエイトノットによる支点構築の復習を行いました。

ロープワークは家の中ではスムースに出きても、実際に山に来ると間違いを起こしやすくなります。

今後、トップで支点構築する場面もあると思いますが、間違いは許されない場面だけに教わったことは必ず身に着けて、次回の講習に参加するようにします。

（写真提供　塩田）

3．トレッキングスクール報告

（指導部長　森本 覚）

第 3 回　6/23(日)

山域：広島南アルプス(武田山～鈴ヶ峰)

人数：11 名（スタッフ含）

6/6(木)三篠公民館にて第 3 回目の机上講習をおこない山の生活技術と食料計画について講習しました。6/23(日)第 3 回目の実技講習は JR 大町駅集合で武田山を登り火山を過ぎた所で大雨警報が発表されました。それに伴いエスケープルートにて下山しアストラムライン大原駅で解散しました。今回は計画していた距離は歩けませんでしたが、雨天の行動で装備の過不足を確認する事が出来たと思います。(森本)

【感想文】

（受講生　西村 理恵）

トレッキングスクール第 3 回目の実技講習は広島南アルプス（武田山～鈴が峰）を 20 ㎞歩く。前回と同様荷物は 10 ㎏です。遅れていた梅雨入りが前日に発表され、当日は雨予報。1 週間前から毎日天気予報を気にかけ、前日から当日朝までは警報が出るのかどうか、気象庁の情報を何度もチェックしました。一日中雨になることを想定しての荷物の準備…事前に頂いたアドバイスの通り、荷物はジップ付きのビニール袋や大きめのゴミ袋を活用し防水対策をしました。服装は、レインウェア（下）と傘をさして歩き始め、途中でレインウェア（上）も着られるように、別々にしてザックの取り出しやすい場所に。着替え、体が冷えたときのための温かい白湯も準備。レスキュー研修会に参加した際、ブルーシートでのツェルトの代用例も学んだのでしっかり装備に加えました。

今回は、特に雨天での服装について考える機会となりました。集合場所に到着し、さっそくレインウェア（下）を着ます。体感からかなり湿度が高いと感じられ、レインウェア（上）も着ることは躊躇してしまいました。途中で風が強く吹く場所があり、雨に濡れたままだと体温を奪われるとのことで上下レインウェアを着ました。とにかく湿度が高く、大量に汗をかくのでウェア内の湿気が排出されにくく、ザックを伝わって雨も入り込むのか、汗と雨の両方で体が濡れ続ける状態でした。行動中は風に当たっても少しほてりが取れて気持ちよいくらいに感じていましたが、下山後に駅で落ち着いたところで白湯を飲んだときに、温かい飲み物が素直に体に入っていくのを感じ、体感していたよりも体は冷えていると気づきました。後日スタッフの方から送っていただいた天気図等の情報では、夕方まで前線が停滞していたとのことで、濡れた服装のままさらに行動し続けざるを得ない場合もあることを考えると、自分自身の服装やレインウェアを着るタイミングに見直しが必要だと感じました。また、行動食も簡単に素早く摂取できること、ザックから取り出しやすいことが、雨天ではより一層大切だということも感じました。些細なことですが自分で考えて対策した小ぶりに握ったおにぎりや大好きなひとくち羊羹が少しだけ心の余裕に繋がりました。蒸し暑くて汗をかくため、前回同様ハイドレーションでこまめに水分摂取に努め、晴れて暑い時だけではなく、雨の日でもしっかりと水分と塩分補給が必要なことも実感できました。行動水以外にも歩荷のために水を多めにしていたことも安心感になりました。

雨は昼にかけて強まり、昼前に火山から権現峠に向かう辺りで大雨警報が発出されたためエスケープとなりました。個人で行動するなら、出発前から登ることを諦めていたであろうと思います。歩き始めから雨降りの山行でしたが、計画係として事前に地形図でのルート作り、行動予定、エスケープルート等考えたこととも繋がり、大変学ぶことの多い貴重な経験となりました。雨の中、危険を意識しながらも歩くごとに湧きあがる冒険心、昔話に出てきそうな霧がたちこめる薄暗い竹藪の道、雨に喜び生き生きと動く蛙やサワガニ、大雨に打たれながら笑い合った皆さんの全開の笑顔…無事に終えられたからこそではありますが、また山に惹きつけられる魅力的な登山でした。ありがとうございました。

（次頁写真提供　久保田 征治）

4．県高校総体報告

（県高体連登山部事務局　修道高校　内藤 弘泰）

＜日程ほか＞

6 月 1 日（土）～2 日（日）

庄原市　県民の森・比婆山一帯

選手参加　10 校，139 名

＜大会結果＞（順位 校名 合計点）

＜男子一部＞

1 広島学院 99.6

2 修道 97.6

3 安古市 84.7

4 廿日市 72.9

5 県立広島 68.5

6 五日市 66.5

＜男子二部＞

1 修道 B1 97.2

2 広島学院 B1 96.7

3 修道 B2 96.4

＜女子一部＞

1 ノートルダム清心 96.8

2 県立広島 81.6

3 五日市 81.1

＜女子二部＞

1 基町 81.0

2 ノートルダム清心 79.3

3 五日市 E1 55.4

上位大会のインターハイへは（一部）優勝の男子・広島学院、女子・ノートルダム清心　が出場

＜概要＞

庄原市の県民の森を幕営地とした大会で、多くの高校生が汗を流しました。

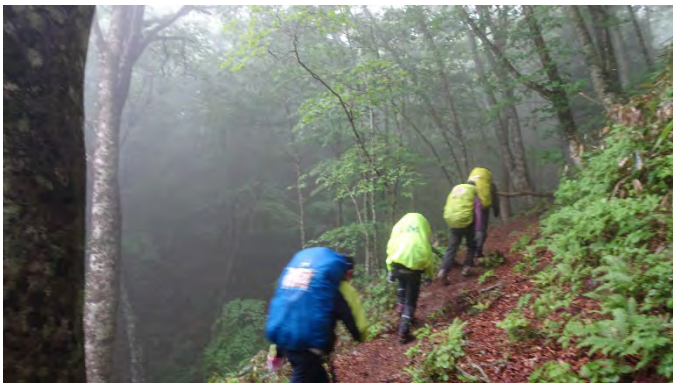
１日目は熊野神社から竜王山を経由して、県民の森へ。体育館でペーパーテストを実施している間に、夕立が降りましたが濡れずにすみました。雨がやむのをまって、各テントのそばで炊事を行い、21 時に就寝。

翌朝は 4 時 30 分起床、テントを撤収して 6 時に集合。前日のペーパーテストの返却が行われ、6 時半から毛無山へむけて登山開始。霧で眺望はありません

でしたが、熱中症の心配はありませんでした。そこから烏帽子山、御陵と縦走して越原越から下山。県民の森の体育館で閉会式を行いました。

突然のにわか雨になんども悩まされながら、山を楽しむ余裕を忘れない選手達には、感動をおぼえました

男子は広島学院、女子はノートルダム清心が優勝。両校のインターハイでの活躍を期待したいと思います。



5．恐羅漢登山道笹刈り報告

（副会長　村井 仁）

1　実施日　５月１８日(土)～１９日(日)

＊行動時間の詳細は笹刈り全体図の右欄を参照

2　整備区間

（計画）台所原～中の川山～天杉山～野田原の頭

１日目実施：台所原～中の川山

２日目実施：中の川山～１１２６鞍部手前（＝中の川山と天杉山の中間付近）

＊整備区間の詳細は笹刈り拡大図を参照

3　主催者など

発起人：安藤和己（安藤縦走会会長・広島山岳会理事）

主催：安藤縦走会、広島山岳会

協力：(一社)広島県山岳・スポーツクライミング連盟、広島山稜会

4　参加者　（◎：２日間、①１日目のみ、②２日目のみ。会の中は受付順）

安藤縦走会：◎安藤 和己、①中岡 節二、①明見 仁司、①印鑰(いんやく) 恭輔、①掛川チヨエ

広島山岳会：②横山 正雄、②三原 宏

広島山稜会：◎槇田 繁

広島大学山の会：①後藤 裕司

広島県庁山の会：◎村井 仁、◎三村 孝治

個人会員：①時森 務、①吉岡 保

１日目：１１名（草刈機７台）、

２日目：６名（草刈機３台、チェンソー１台）

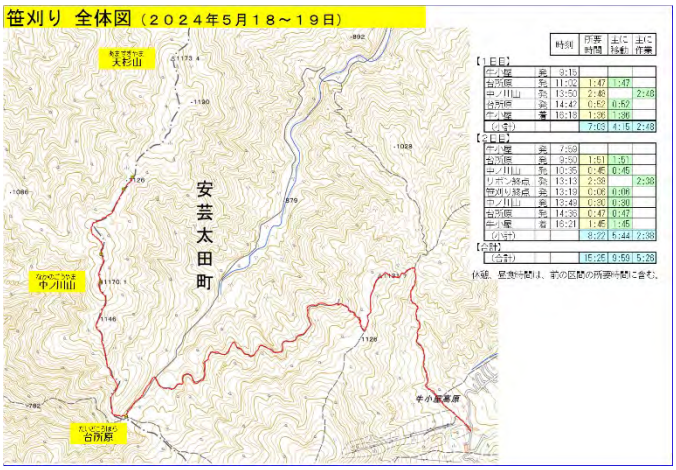
全１３名、のべ１７名

『登山道笹刈りを終えて』(安藤和己)

私たちは登山という素晴らしい趣味を学んだせいで、より豊かな人生を過ごすことができた。私は登山の楽しさと危険を教えたり、登山道の整備でその恩返しをしたいと考えている。

今回のルートは、公の地図に明記されているにもかかわらず、廃道になっている。そのため、ますます踏み跡は消え、背たけもある大ヤブで、まず登山者は入らない。だんだん体力は衰え、少人数では不可能であった。そのため、ガクレンに協力要請し、全部で１３名も参加してもらった。おかげで初日に中ノ川山まで、２日目に中ノ川山から天杉山への中間付近まで、笹刈りができた。やっぱり、人の力は捨てたものじゃない。頭数揃えば、不可能が可能になる。まず現地まで道具を持って２時間歩く体力がいる。２日間でここまで開

拓できるとは予想していなかった。心よりお礼と感謝を申し上げます。今後は、いろいろな課題を解決し、長く続くよう精進しましょう。私にとって行政との交渉や会議は大の苦手であった。最後は“意地でもやる”という情熱である。私の好きな言葉の“人間は微力だが無力ではない”を実感できて嬉しかった。



６．大邱山岳連盟来広・登山フェスティバル・県民ハイキング報告

『県民ハイキング（龍王山）に参加して』

広島県庁山の会（ストレッチ係兼歴史解説助手）

小田　純子

青空に薄い雲が広がる絶好のハイキング日和となった６月２日（日）、県民ハイキングのスタート地点である東広島市の龍王山公園へ総勢６１名が集合しました。

開会式で入念にストレッチをしたのち、５班に分かれてスタートします。龍王山の標高は 575m で、一帯はよく整備されたハイキングコースになっています。歩きやすい木立の中をわいわいと進みます。一般参加の方々にも経験者さんが多く、それぞれに会話や景色を楽しむ余裕を持っておられるように見受けられました。

龍王山の特徴の一つは、降った雨が地下を流れていくうちに、日本酒のもとになるおいしい軟水に変化するということ。中腹には、おいしいお酒につながるおいしいお水が湧き出ています。飲んでも酔っぱらいませんが、登山中の冷たい湧水は元気回復になりますね。この湧水スポットでは、小休憩とともに、県庁山の会・松井会長による歴史解説もありました。

尾根手前のしんどい急登を越えると、風通しの良い尾根道からはふもとの風景が見え隠れしはじめます。山頂からの眺望に期待が膨らみます。

山頂では、西条盆地を見晴らす展望台が設置されており、広々とした空間が広がっています。ここでは恒例の豊田理事長による歴史解説がありました。龍王山にまつわるお話から、西条にとどまらず呉までも巻き込むストーリーの昔話に、皆さん興味津々でした。

昼食は、山頂広場から少し下った東屋広場にて。めいめいが持参した昼食を、一般参加の方も交えていただくと、自然と会話が弾みます。

今回のコースは下山中にも見どころがありました。古墳群です。龍王山の中腹には古墳時代後期に作られたと思われる古墳群があり、特に大きな花が迫古墳は竪穴式石室の状態が良く残っています。木漏れ日の中、1300 年以上昔の人々の営みに思いを馳せました。ちな

みに広島県は古墳数ランキング全国６位だそうです。すごいですね。

龍王山公園への下山後は、ストレッチをして解散です。

運営側としては各種反省点もあったものの、参加者の皆様が怪我なく、笑顔で帰って行かれた姿を見て、ほっと安心したのでした。

また、年齢も住所もさまざまな人たちが山を楽しみながら交流するというのは、県民ハイキングの醍醐味だなということを、しみじみと実感した一日でした。

ご一緒した皆さん、お疲れさまでした＆ありがとうございました。

『あなたの（もしかしたら）知らない龍王山』（当日の解説）

A　名水の碑の前で

（広島県庁山の会会長　松井 秀樹）

西条盆地は、かつては湖や川だった土地で、地中にはそのころに溜まった、栄養豊かな土が埋まっています。龍王山から湧き出る水は、ミネラルをあまり含まない、酒造りには向いていない軟水ですが、栄養豊かな西条盆地の土の中を、ゆっくりゆっくり、15 年と言う人もいれば 50 年と言う人、100 年と言う人もいますが、龍王山から酒蔵通りまでたった３㎞の間をそれくらいゆっくりと時間をかけて通るうちに、酒造りに適した、ミネラル豊かな水になっていくのです。

B　山頂にて

（理事長　豊田 和司）

雨乞い

西城は盆地には黒瀬川の他は大きな川がなく、古来水に苦労してきた。そのため、ため池も多く、それらには朝鮮からきた技術を使って築かれたものもある。安芸津にある高麗池（こまいけ）などは、その名前にその名残をとどめている。今も、東広島市は、広島市の太田川から水の供給を受けている。

① 龍王山と呼ばれる山は全国に多数ある。東広島市内にも、西条町、黒瀬町、河内町など。その理由は、龍は災いを避けて運気をつかさどる神様で、龍王が鎮座する山が龍王山と呼ばれ、雨乞い・水源の山として生活と深い関係があったと言われる。

② 雨乞いをする山が龍王山で、別名は龍泉寺山、テレビ塔の立つ郡宮山、標高 452m。ここに、龍王の祠がある。今はこの標高 575mを頂上とする山全体を龍王山と呼ぶ。江戸時代は御建山とされ、一切の木の伐採が禁止され、勝手に立ち入ることが許されなかった。

③ 江戸時代の雨乞いの方法は、一戸一名以上、一束の薪を背負って登山、徹夜（５夜連続とも）で、千把薪を焚いて龍王の祠にある水瓶をきれいにし、雨乞いをした。これは藩の命令で一斉に行われた。（芸藩通史より）

④ 昭和 14 年（1939 年）、記録的な日照りに見舞われる中、下三永の山頂にある福成寺（ふくしょうじ）に、当時の西条町長が訪問して、雨乞いを要請した。菖蒲の前伝説にゆかりのあるお寺で、この寺の鐘を滝に沈めて雨乞いをすると効果があると信じられ、過去３回成功していた。ラジオが普及しており、科学的な天気予報では、雨の予報は一切なかった。しかし、満願の日、一時的にせよ、奇跡的に雨が降った。（『生きている伝説』）

賀茂郡の地名の由来

ここで質問「賀茂郡は、なぜそうよばれるのでしょうか？」

① 賀茂氏に関係があると言われている。賀茂氏は、神武天皇が東征し、熊野に至ったとき、八咫烏になって敵を偵察し、勝利をもたらしたと言われている。その功績もあって、京都北部を賜り、そこを開いて、賀茂神社を置くことを許された、とされている。その賀茂氏が全国に散らばり、日本全国に賀茂郡は９つもある。

② 賀茂氏はその土地の信仰を大切にしたと言われる。八本松に、岩蔵神社があり、背後の虚空蔵山（現在の岩室山）の拝殿となっている。古来からこの土地にあった、巨石信仰、穴倉信仰を尊重した構造になっている。

碇神社（岩蔵神社のそば）の謎

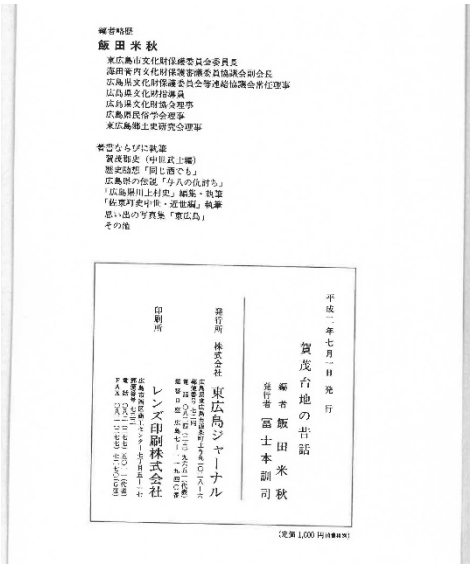
なぜ、こんな山の中に、碇神社があるのか？

現在米満（よねみつ）と呼ばれる場所は、昔２９ヘクタールもある人造湖だった。そこで使用した船の石の碇が祭ってある。それが、いつの頃か干上がって田となり、豊作が続いたので、米が満ちるという意味の地名となった。では、それはいつ干上がったのか？これについて、一つの伝説がある。

大蛇の伝説

「いつの頃なりしや、水中に大蛇住みて毛利家の御飛脚を殺せしかば、修験者に被仰せつけ一団殺の毒薬を流せしに依て彼蛇首を以て堤に触れ突き崩して広村の方へ逃げたりしよし…」

もう一つ、下流の**黒瀬町に伝わる伝説「お松明神」**（当日朗読・小田純子）の出典を紹介する。



C　古墳前にて

（豊田 和司）

古墳は地域の首長、豪族の墓として理解されることが多いが、５世紀半から７世紀半ばにはそれらに加え、台頭した有力農民層の墳墓が出現する。５世紀代に朝鮮半島から農業や土器作りや鉄器作りなど新しい技術がもたらされ、力をつけた農民や手工業者たちも古墳作りに参加。これらの古墳は家族とともに、あの世の安寧を求めるもので、豪華すぎもせず、大きすぎることもない。

『県民ハイクに家族で参加』

（個人会員　沖元 泰使）

この度の県民ハイクにはパートナーと２歳の娘、家族３人で前夜のキャンプファイヤーから参加させてもらいました。小さな子どもは娘だけということで、キャンプファイヤーの点火をさせてもらいました。火を怖がって点火できるかと心配しましたが、生まれて初めて間近に見る火に興奮気味で一人でやりたがるほどでした。歌を聴いたり、じゃんけん大会に参加して景品をもらったりと普段では体験できないことが目白押しで、興奮のあまり寝られなくなってしまうのではないかと不安でしたが、しっかり疲れたのか、これまた生まれて初めてのテント泊でしたがすぐに寝てくれました。

翌朝はいよいよ県民ハイク。今回のお山は麓に遊び場があること、道がなだらかで長時間の歩行でないこと、山頂が開けていて子どもと遊ぶことができそうなことから、参加のお願いをしました。娘はまだとても一人で歩ききれるような年齢ではありませんが、背負子に乗せるということで参加を認めてもらいました。周りに同じような子どもがいなかったせいで、周囲からはちやほやされ、山行中は愛想よく振るまっていました。娘は２歳とはいえ１４㎏を超えており、携行した水や食料、救急用具と合わせるとなかなかの重さですが緩やかでよく整備された登山道、緩やかな歩行ペースのおかげでばててしまうことなく歩くことができました。山頂に着くと周りの草木や虫に興味津々の娘は、お弁当もそこそこに落ち葉を拾ったり、虫を追いかけたりして楽しく遊んでいました。私から見ると何の変哲もない、里山ならどこにでもある草木、虫たちですが、娘には新発見で刺激的な世界が広がっていたということです。下山すると遊び場の遊具が目に入るなりそこに行きたがったので、失礼ながら解散式から抜けさせてもらいましたが、参加の皆様に良くしてもらい、一家で楽しい山行の一日になりました。

（次頁写真提供　個人会員 金村栄蔵、事務局 西部）

5/31 アステールプラザにて大邱山岳連盟との懇親会

6/1 龍王山憩いの森に移動して

キャンプファイヤーに点火

6/2 県民ハイキング（龍王山山頂にて西条盆地をバックに）

7．岳連短信

1．寄贈御礼

6/18 三原山の会『筆影』No.532（7月号）
(6/26) 広島山稜会『峠通信』780（6月号）
6/28 福山山岳会『会報』7月号

2．8月の行事予定

8/2(金)～6(火) 第６８回全国高校登山大会（インターハイ）（福岡県英彦山・岳滅鬼山）
8/11(日祝) 県民ハイキング(64)（深入山）
8/11(日祝)～12(月祝) 第８回「山の日」全国大会（東京都）
8/25(日) 中国地区ユースクライミング大会（広島 CERO）

3．長野県山協・大西浩氏訃報

長年にわたって高校登山部の活動に関わり、『中信高校山岳部かわらばん』で情報発信するとともに、長野県山岳協会の理事長や副会長を務められていた大西浩さん(64歳)が長野県山協の隊員３名とともにパキスタン・カラコルム山脈のスパンティーク峰(7027m)に7/1登頂成功後、7/2にC1からBCへの下山中、標高5500m付近でクレバスに滑落し、隊員により引き上げられたものの、翌7/3に亡くなられていることが確認されました。謹んで哀悼の意を表します。

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。
○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。
○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。